

「世界の生態系の3分の2が破壊の危機」、国連環境計画が報告書

2005/04/08/

国連環境計画(UNEP)はこのほど、世界の生態系の現状に関する報告書を発表した。このなかで世界中の生態系のうち約3分の2が破壊の危機にあることが明らかになった。過去50年間に行われた生態系の改変は、人類史上最も大規模なものという。

この報告書は、21世紀の始めに当たり生態系の現状を評価したもの。95カ国の科学者1300人以上が参加してまとめた。報告書によれば、人類は食糧や飲料水、木材、繊維、燃料を得るために生態系を破壊した結果、経済発展を遂げ、生活水準を向上させた。しかし、これと引き換えに生物の多様性は回復不能なほどに失われた。例えばほ乳類のうち約4分の1の種が絶滅の危機に瀕しており、生態系の破壊により貧困状態に陥った人達もいる。

報告書はまた、生態系の価値を金額に換算して算出した。例えばカナダにある手付かずの湿地帯は1ha当たり6000ドルの価値があり、タイのマングローブ林は同1000ドルの価値があるという。報告書は、21世紀前半に、生態系の破壊はますます深刻化する恐れがあり、今後何らかの対策を取らなければ、将来の世代が生態系からの利益を受ける可能性を奪うだろうと指摘。根本的な対策の必要性を呼びかけた。(日経エコロジー)

■ 関連情報

・[UNEPのwebサイト](#)

提供: [日経エコロジー](#)